

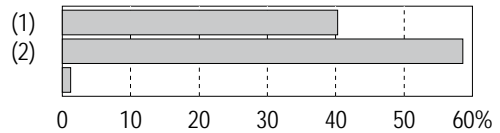
24) 栄養表示

栄養表示を参考にする割合は40.3%であった。

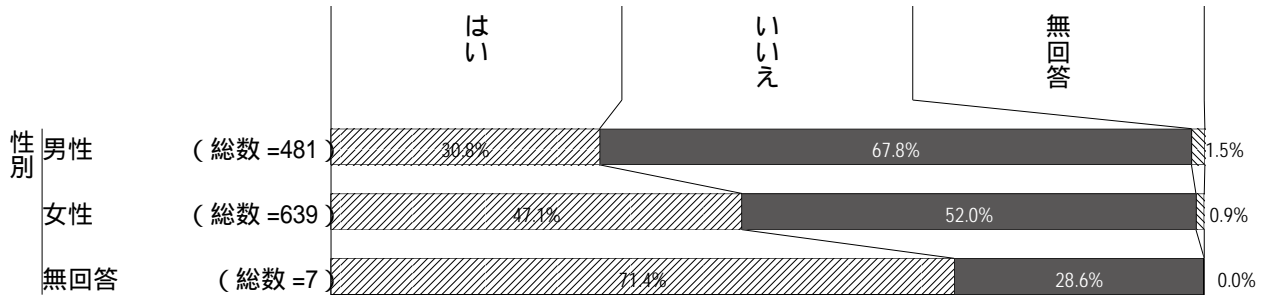
問34 あなたは、食品に記載されているカロリーなどの栄養表示を参考にしていますか。(はひとつ)

1 はい 2 いいえ

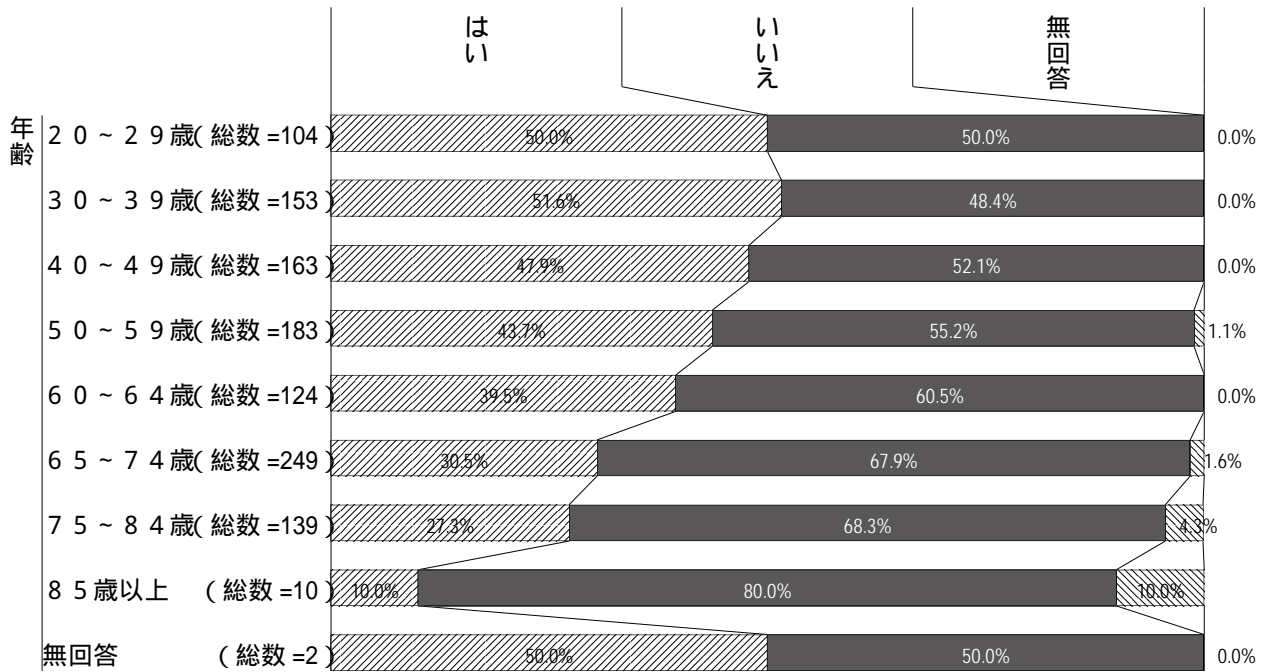
		度数	割合
(1)	はい	454	40.3%
(2)	いいえ	660	58.6%
	無回答	13	1.2%
	合計	1,127	100.1%



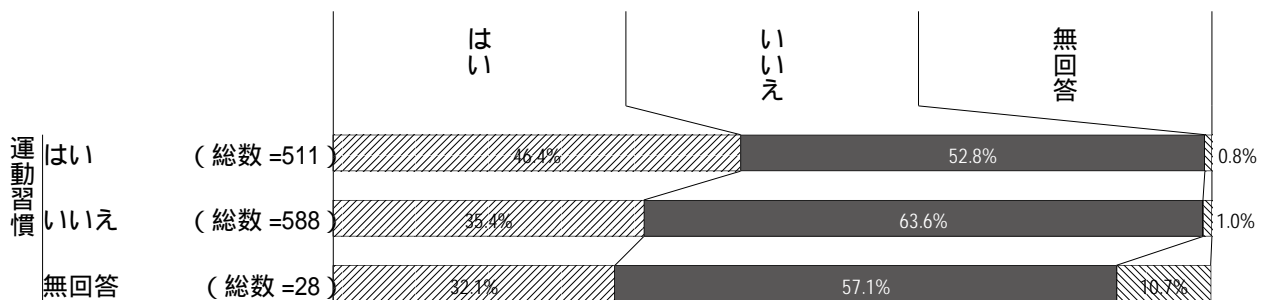
男性に比べ女性の方が栄養表示を参考にしている割合が高かった。



年齢別にみると、若い回答者ほど参考にしている割合が高かった。



運動習慣のある回答者は、栄養表示を参考にする割合が高かった



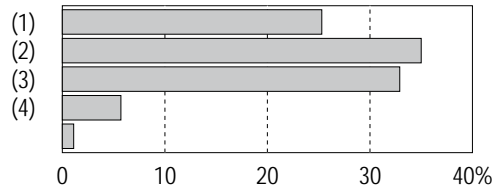
25) 睡眠

睡眠に関しては、「十分足りている」と「ほぼ足りている」を合わせて60.3%であった。

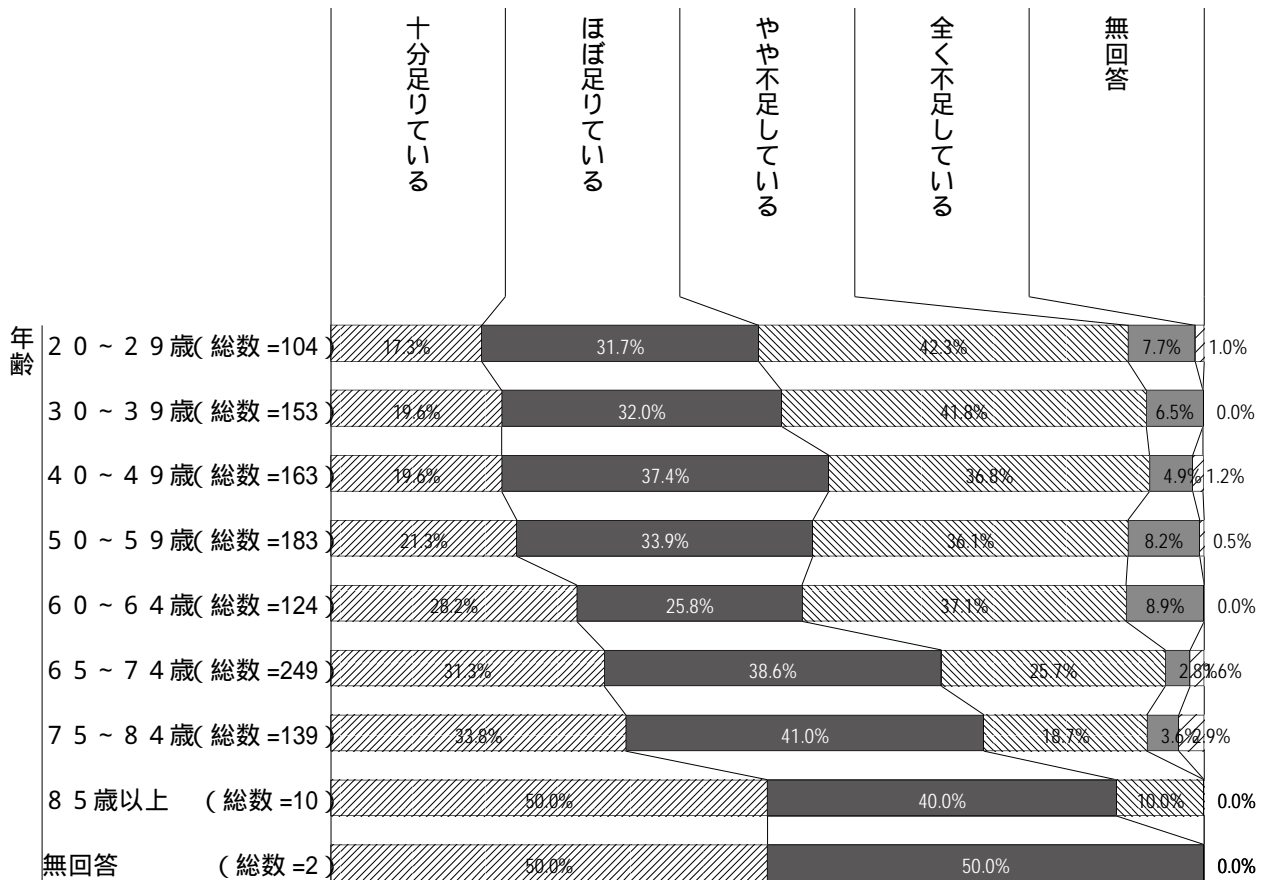
問 35 あなたの睡眠による休養は十分ですか。(はひとつ)

1 十分足りている	3 やや不足している
2 ほぼ足りている	4 全く不足している

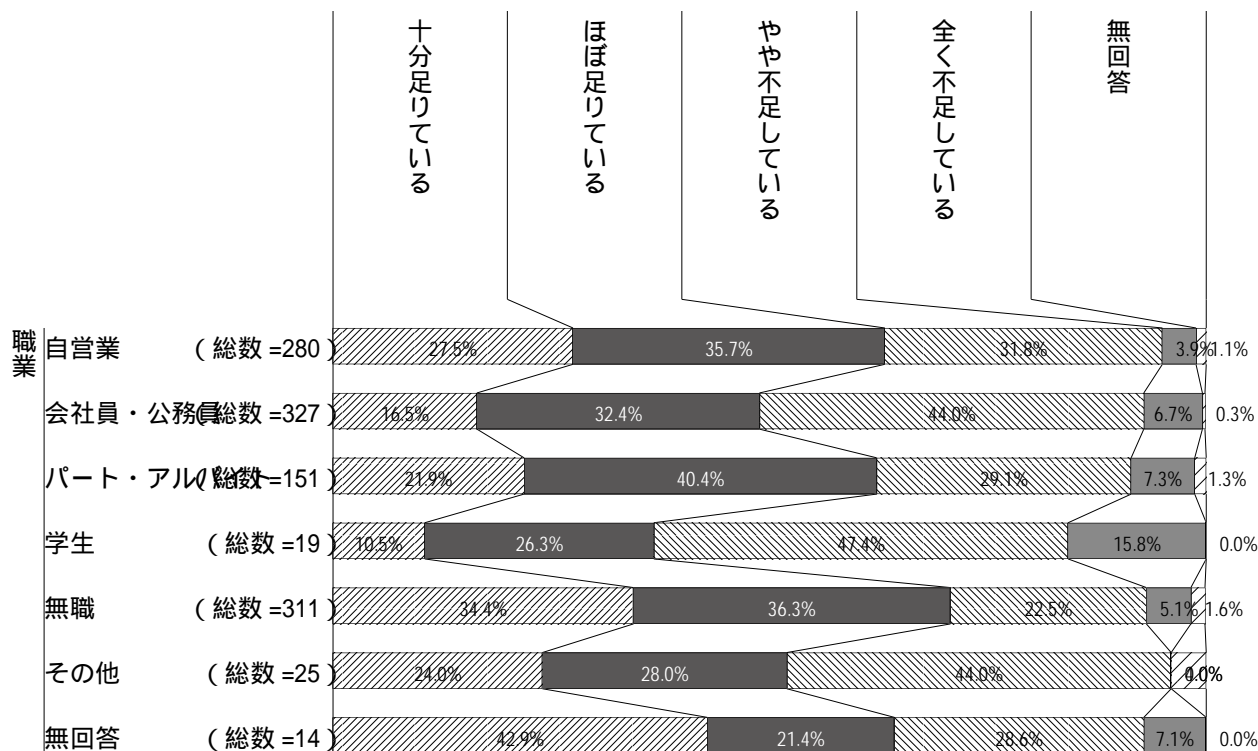
	度数	割合
(1) 十分足りている	285	25.3%
(2) ほぼ足りている	395	35.0%
(3) やや不足している	371	32.9%
(4) 全く不足している	64	5.7%
無回答	12	1.1%
合計	1,127	100.0%



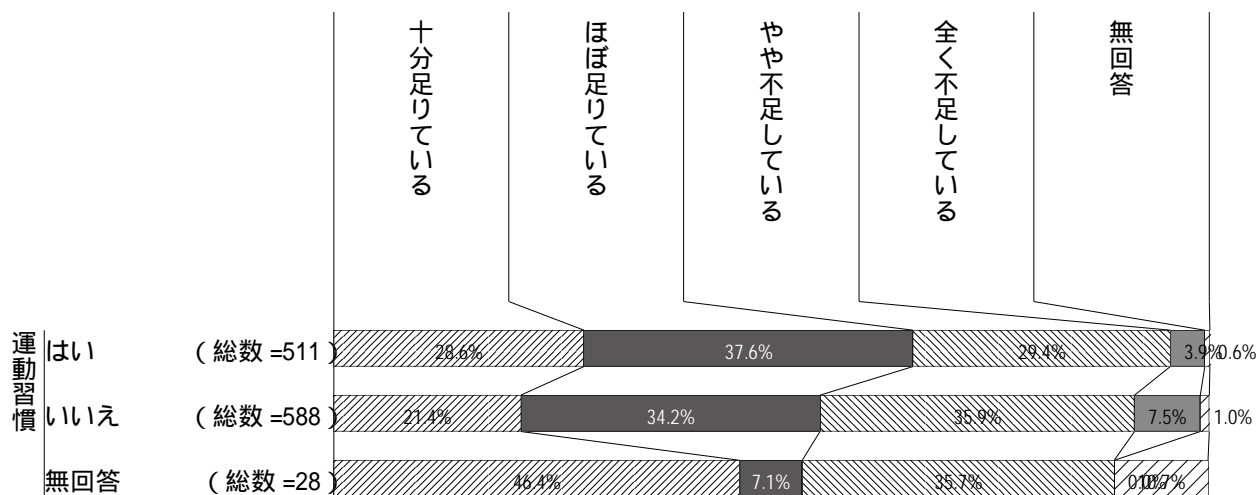
年齢別にみると、年齢が高いほど「十分足りている」割合が増加し、「やや不足している」、「全く不足している」割合が低下する傾向であった。



職業別では、学生、会社員・公務員で「不足している」の割合が高かった。



運動習慣のある回答者の場合、「十分足りている」割合が高く、不足している割合が低い傾向を示している。



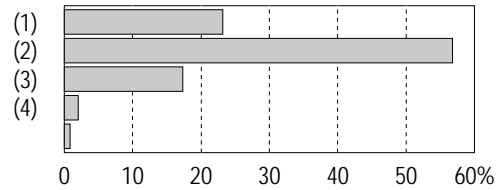
26) ストレス

ストレスについては、「ときどき感じることもある」が56.8%で最も高かった。

問 36 あなたは、ストレスを感じていますか。(はひとつ)

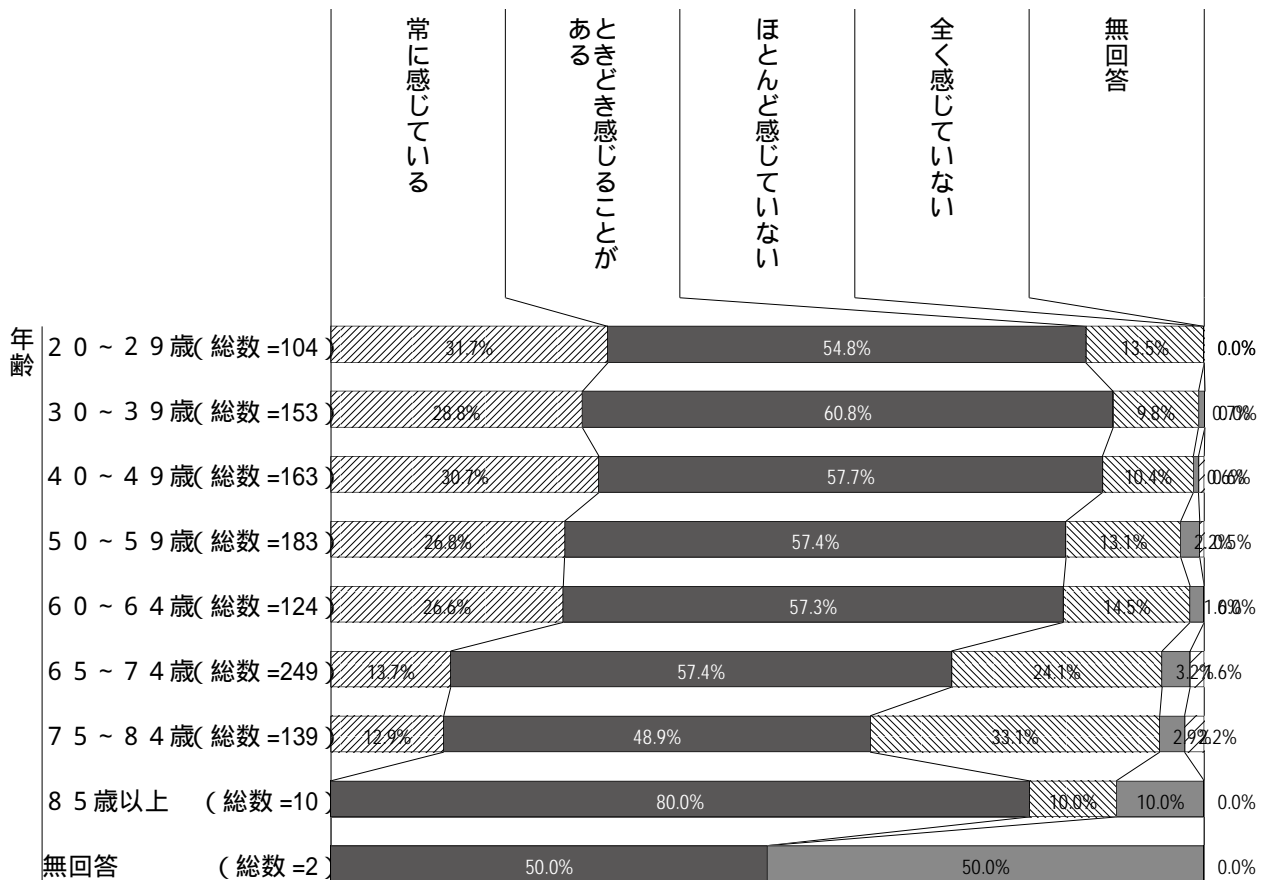
- | | |
|----------------|--------------|
| 1 常に感じている | 3 ほとんど感じていない |
| 2 ときどき感じることもある | 4 全く感じていない |

	度数	割合
(1) 常に感じている	261	23.2%
(2) ときどき感じることもある	640	56.8%
(3) ほとんど感じていない	195	17.3%
(4) 全く感じていない	22	2.0%
無回答	9	0.8%
合計	1,127	100.1%

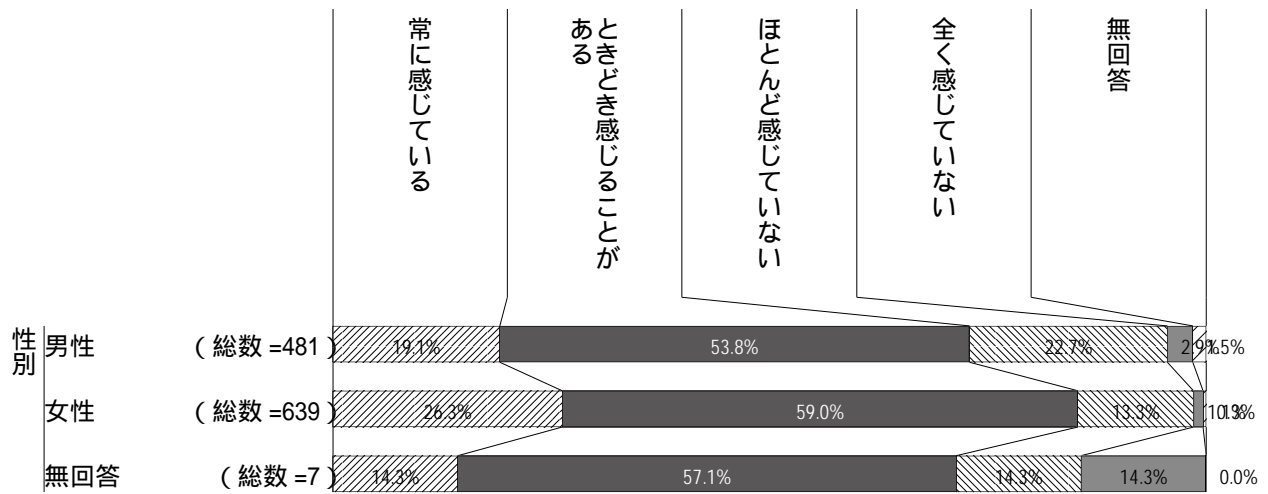


年齢別にみると、年齢が高いほどストレスを「常に感じている」割合が低下し、「ほとんど感じていない」割合が高くなる傾向を示している。

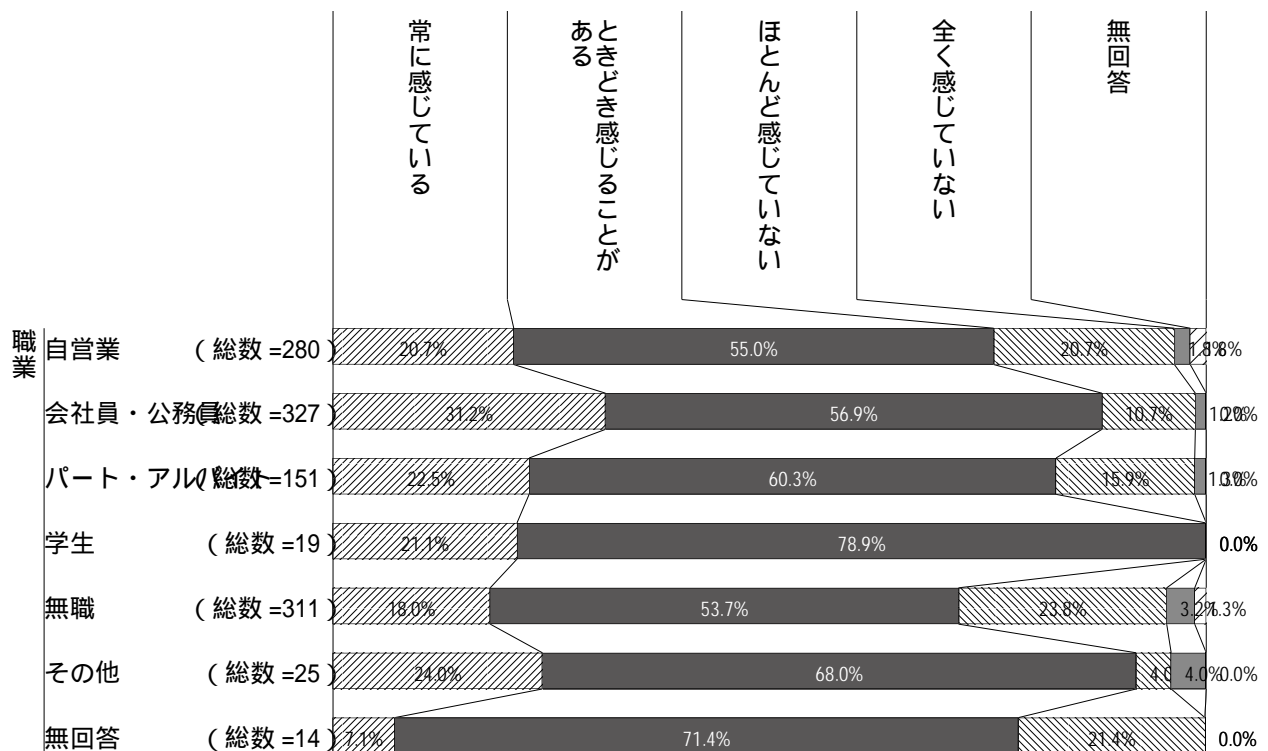
しかし、ストレスを「ときどき感じることもある」割合は50%前後で一定している。



性別にみると、女性の方が男性よりもストレスを「常にかけている」、「ときどき感じることがある」割合が高い傾向があった。



職業別にみると、「会社員・公務員」で「常に感じている」割合が高い傾向があった。



27) 歯

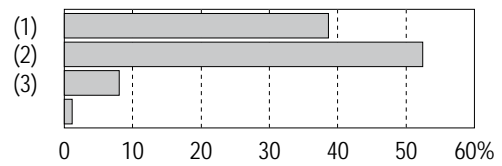
口や歯の状態

口や歯の状態に「ほぼ満足している」は 38.6%、「やや不満だが日常生活には困らない」は 52.4% であり、「不自由や苦痛を感じている」は 8.0%であった。

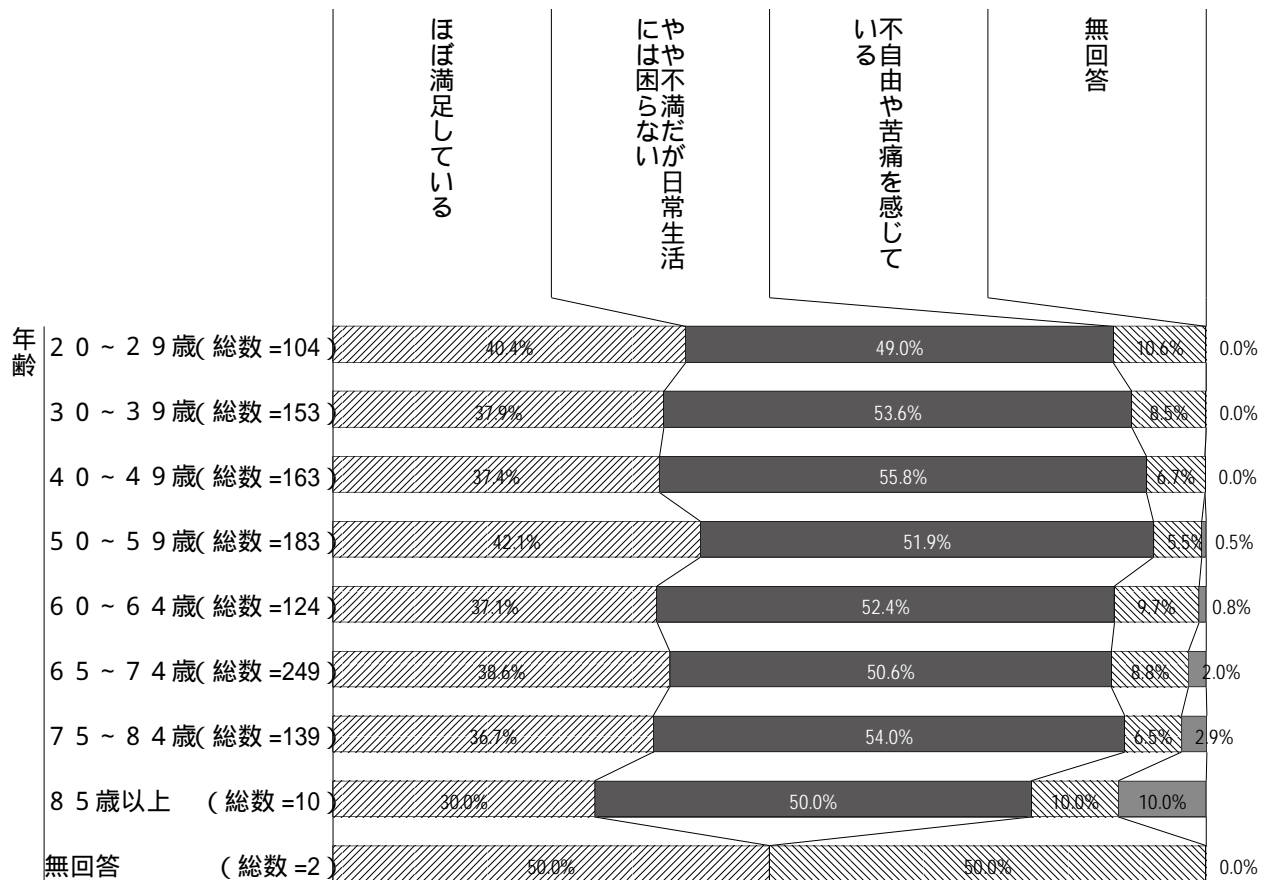
問 37 あなたは、ご自身の歯や口の状態についてどのように感じていますか。(はひとつ)

- | | |
|--------------------|----------------|
| 1 ほぼ満足している | 3 不自由や苦痛を感じている |
| 2 やや不満だが日常生活には困らない | |

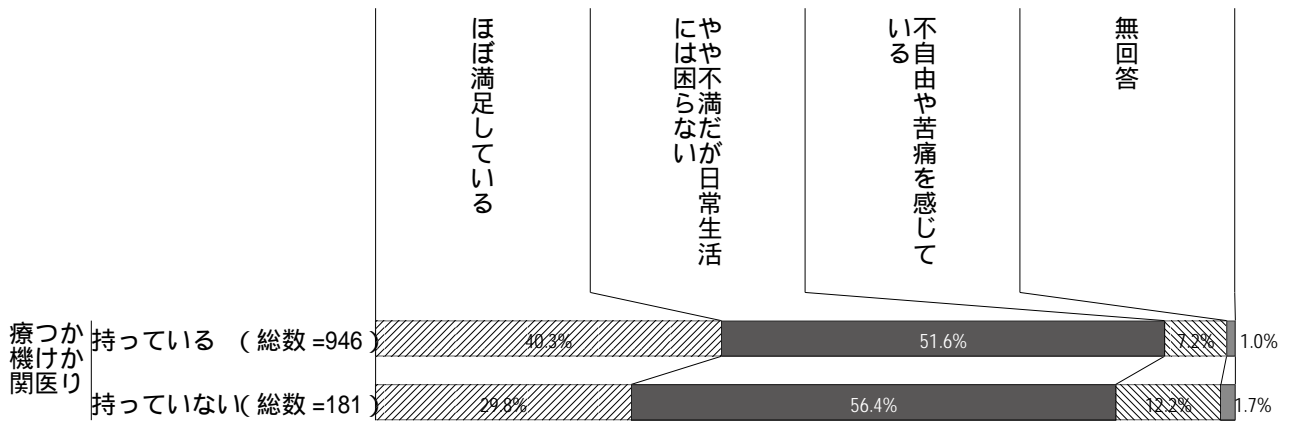
		度数	割合
(1)	ほぼ満足している	435	38.6%
(2)	やや不満だが日常生活には困らない	590	52.4%
(3)	不自由や苦痛を感じている	90	8.0%
	無回答	12	1.1%
	合計	1,127	100.1%



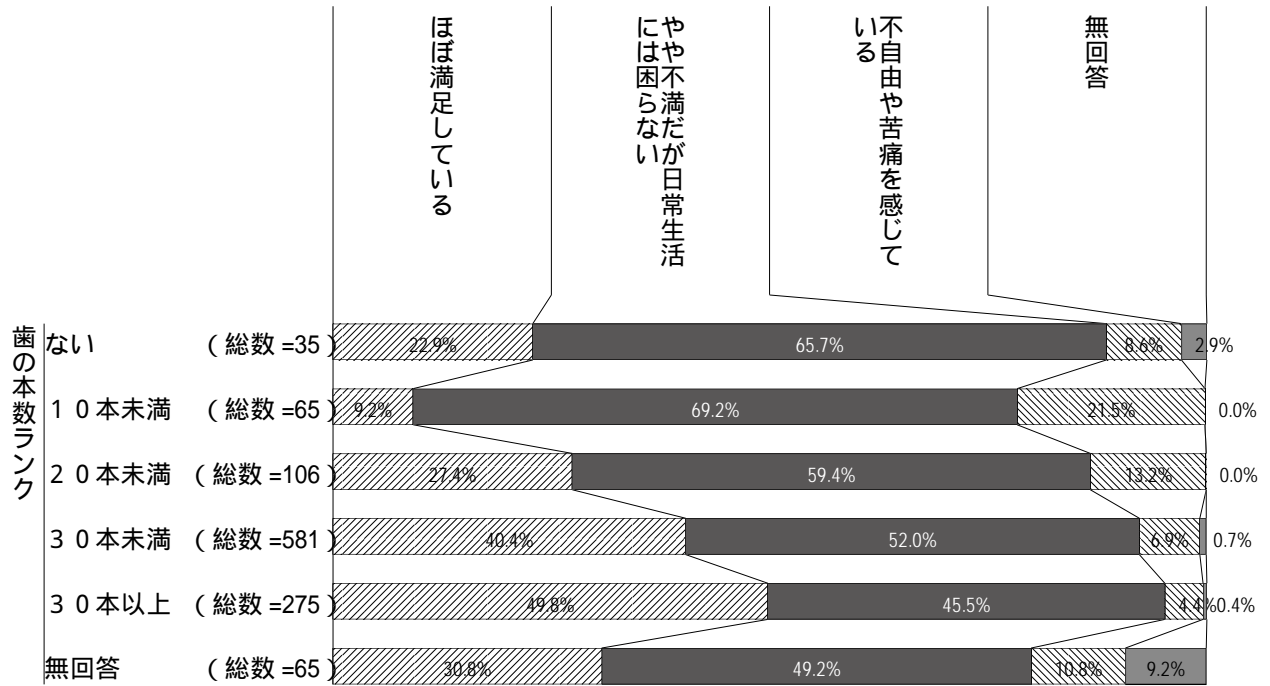
年齢別に歯・口の状態をみると、ほとんど明確な違いがない結果になっている。



かかりつけの医療機関を持っている回答者では、「ほぼ満足している」割合が高かった。



歯の本数別にみると、歯の本数が少ないほど「不自由や苦痛を感じている」割合が高かった。



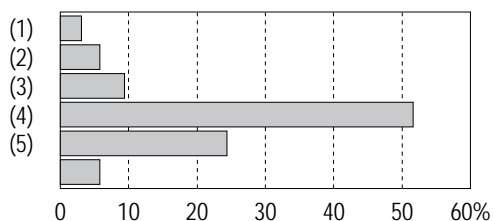
歯の本数

歯の本数は、30本未満が全体の51.6%を占めていた。

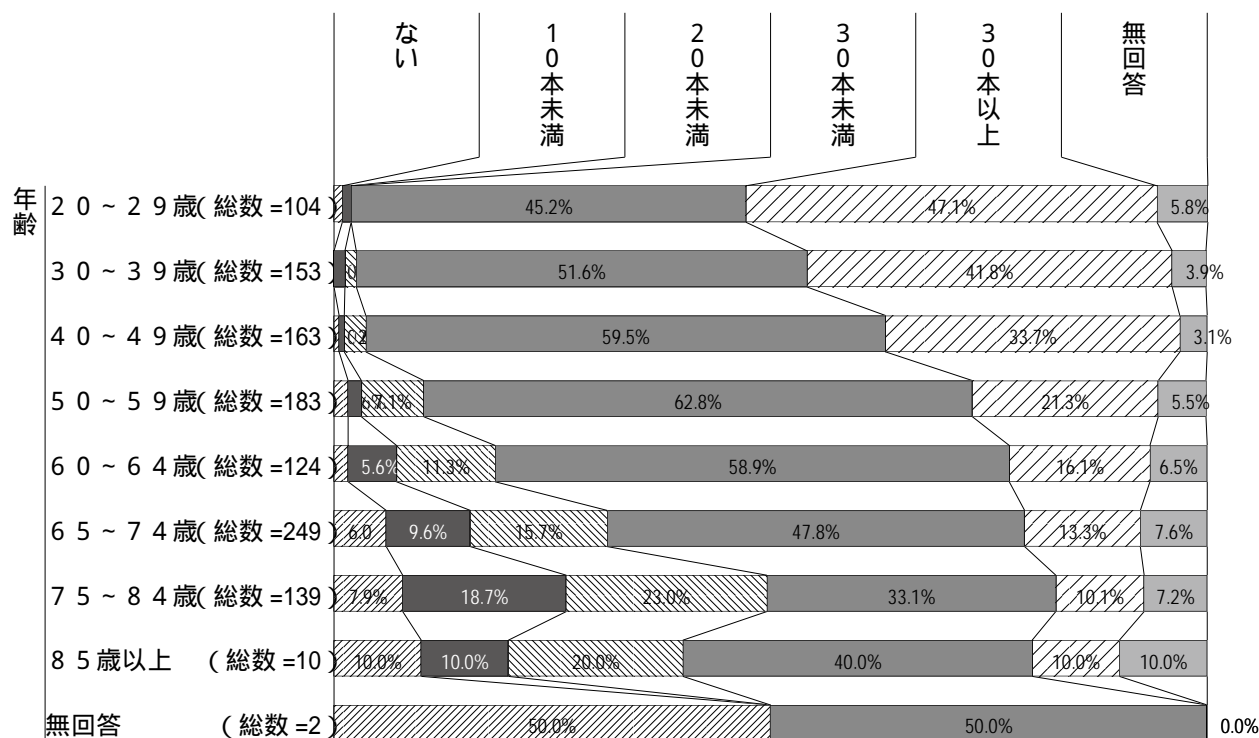
問 38 あなたの歯は何本ありますか。本数を記入してください。正確に分からない場合は、おおよその数を記入してください。(永久歯は親知らずが全部生えると32本です。)

[]本

		度数	割合
(1)	ない	35	3.1%
(2)	10本未満	65	5.8%
(3)	20本未満	106	9.4%
(4)	30本未満	581	51.6%
(5)	30本以上	275	24.4%
	無回答	65	5.8%
	合計	1,127	100.1%



年齢が高くなるにつれて歯の本数は減少している。



28) こころの健康

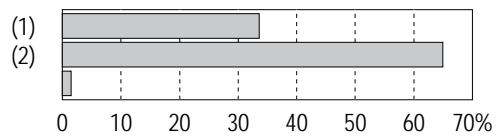
うつ状態や不安な状態になった経験

うつ状態や不安な状態になった経験が「ある」割合は 33.6%であった。

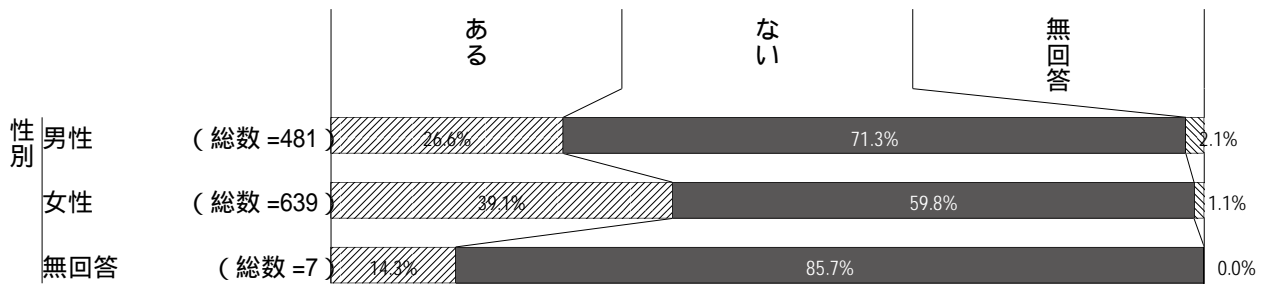
問 39 あなたは、とても憂うつで無気力になるなど、うつ状態や不安な状態になった経験がありますか。(はひとつ)

1 ある	2 ない
------	------

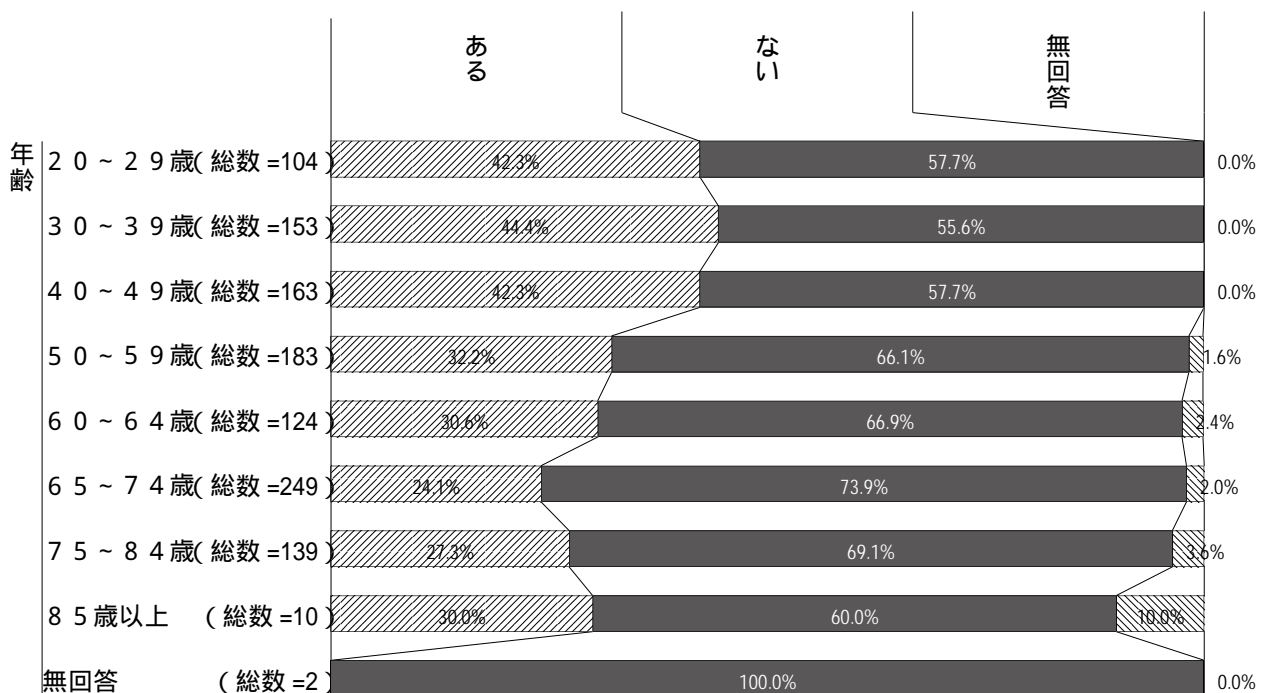
		度数	割合
(1)	ある	379	33.6%
(2)	ない	731	64.9%
	無回答	17	1.5%
	合 計	1,127	100.0%



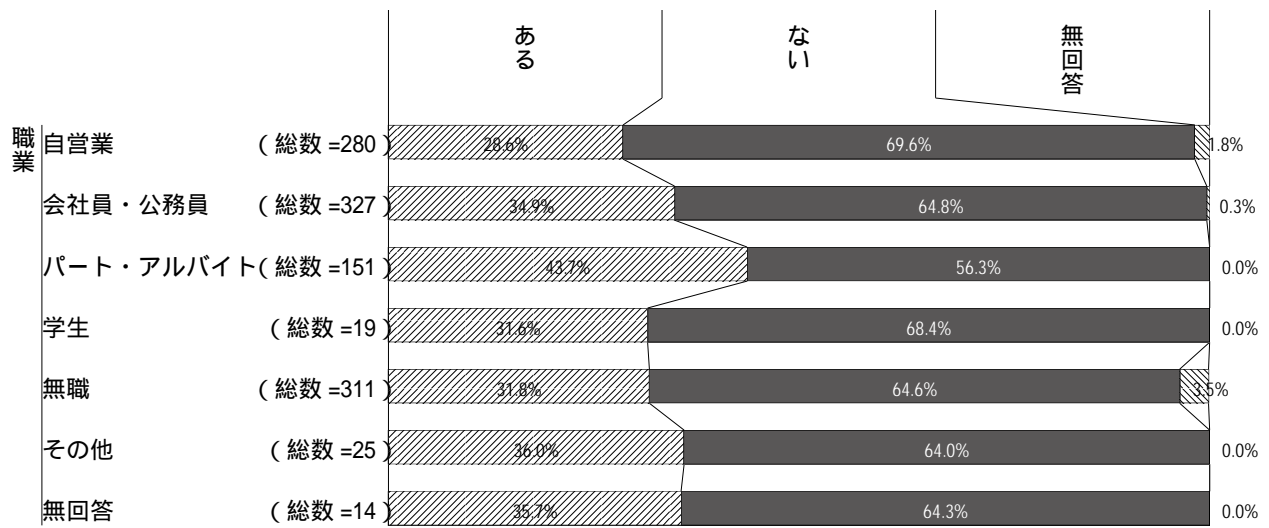
うつ状態や不安な状態になった割合は、男性よりも女性の方が高かった。



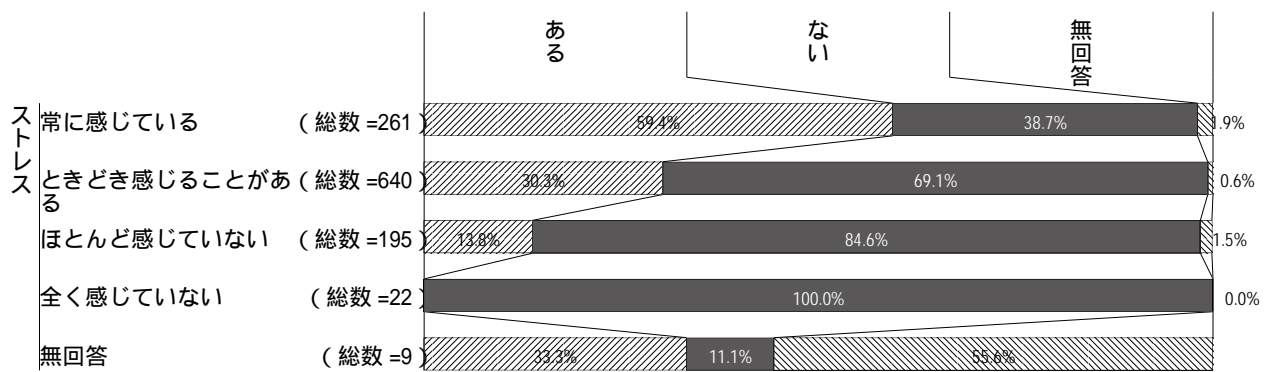
年齢別にみると、若いほどうつ状態や不安な状態になった割合が高くなる傾向が見られる。



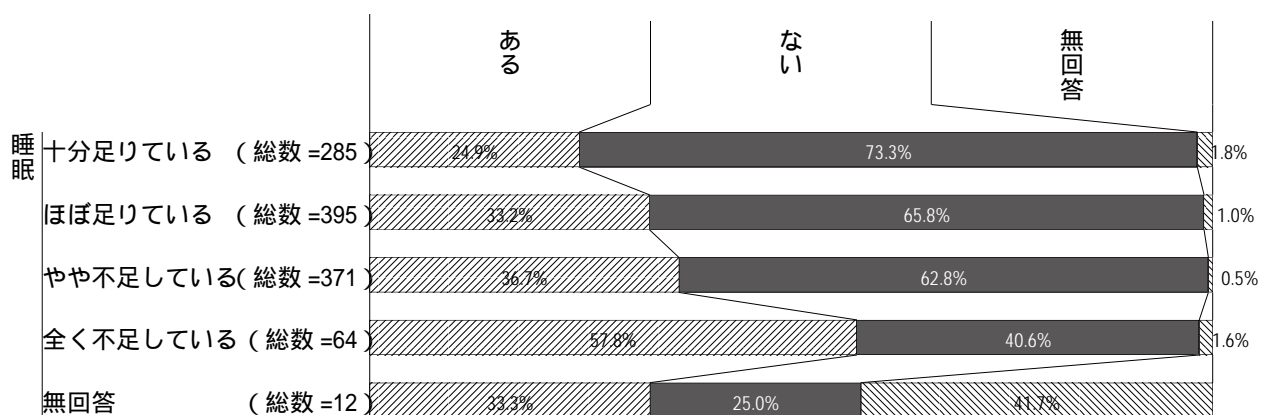
職業では、「パート・アルバイト」が最も高かった。



ストレスとの関係では、ストレスを常に感じている回答者では、有意にうつ状態や不安な状態になった経験がある割合が高かった。



睡眠が不足していると感じる回答者では、うつ状態や不安な状態になった経験がある割合が高かった。



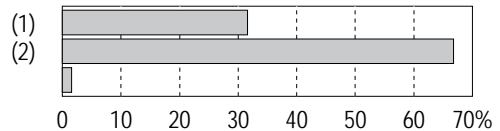
相談機関の認知度

うつや不安な状態になった際の相談機関の認知度は 31.6%であった。

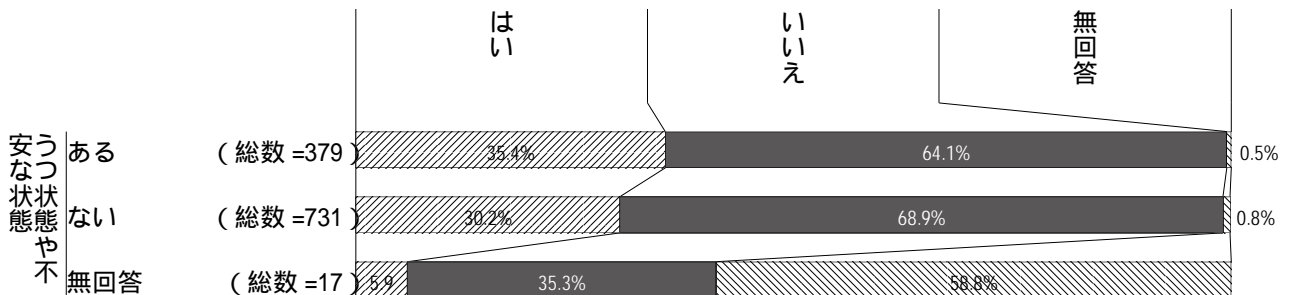
問 40 あなたは、ご自身や家族が抑うつ状態や不安な状態になった際、相談できる場所（保健所や職場の相談窓口）があるのをご存知ですか。（ はひとつ）

1 はい	2 いいえ
------	-------

		度数	割合
(1)	はい	356	31.6%
(2)	いいえ	753	66.8%
	無回答	18	1.6%
	合計	1,127	100.0%



相談窓口については、うつ状態や不安な状態の経験による差異はほとんどなかった。



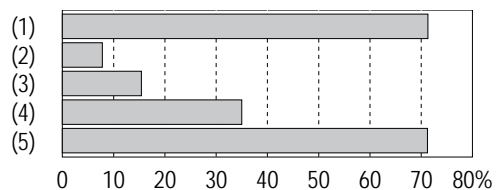
2.9) 言葉に対する認知度

「食育」、「口腔ケア」については 70%以上と高かったが、COPD が 15.4%、ロコモティブシンドロームは 7.8%と低かった。

問 41 あなたは次の言葉を見たり、聞いたりしたことがありますか。（ はあてはまるもの全て）

1 食育	4 食事バランスガイド
2 ロコモティブシンドローム	5 口腔ケア
3 COPD（慢性閉そく性肺疾患）	

		度数	割合
(1)	食育	804	71.3%
(2)	ロコモティブシンドローム	88	7.8%
(3)	COPD（慢性閉そく性肺疾患）	174	15.4%
(4)	食事バランスガイド	394	35.0%
(5)	口腔ケア	802	71.2%
	回答者数	1,127	



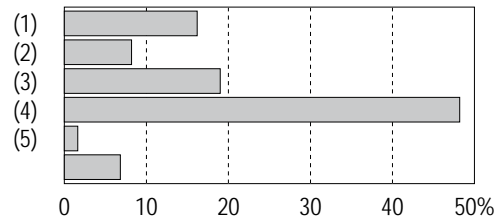
30) 望ましい広報媒体

今後の広報の媒体としては、「広報 たいとう」が 48.2%と最も高く、次いでパンフレット、ホームページの順であった。

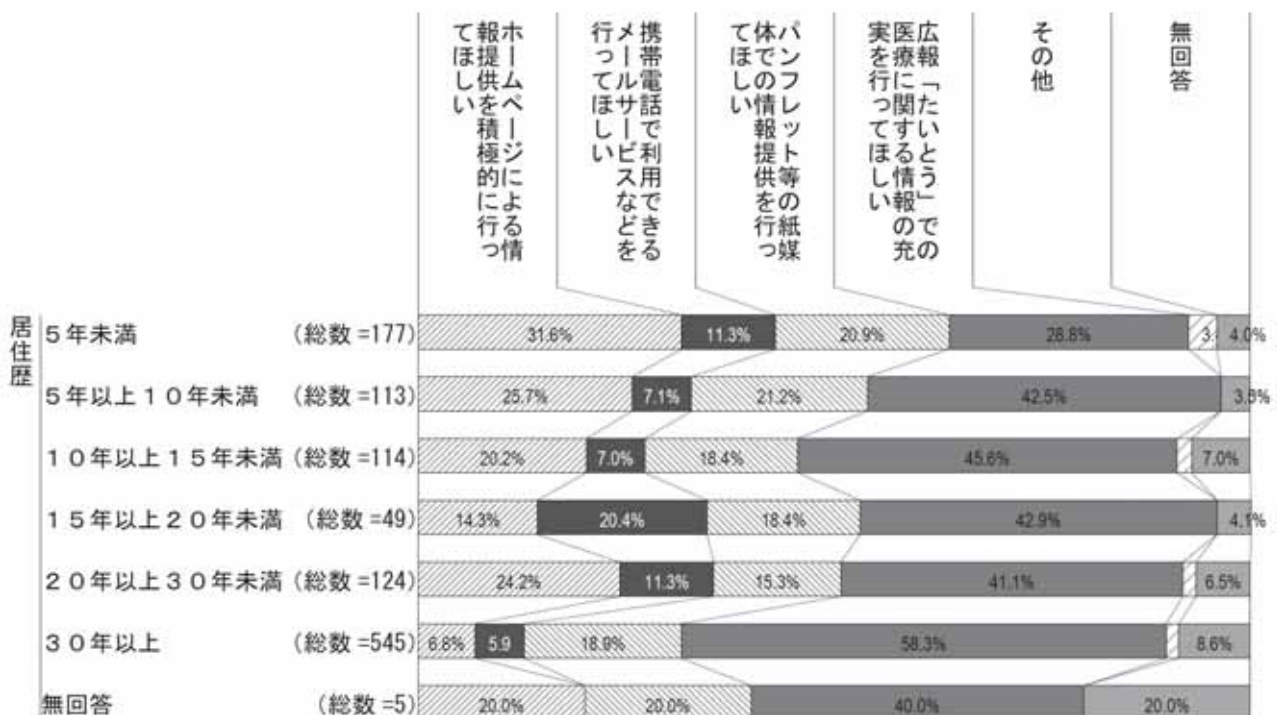
問 42 あなたは、区が行う医療に関する情報提供においてどのような情報媒体（メディア）の利用が一番望ましいとお考えですか。（ はひとつ）

- 1 ホームページによる情報提供を積極的に行ってほしい
- 2 携帯電話で利用できるメールサービスなどを行ってほしい
- 3 パンフレット等の紙媒体での情報提供を行ってほしい
- 4 広報「たいとう」での医療に関する情報の充実を行ってほしい
- 5 その他 [具体的に：]

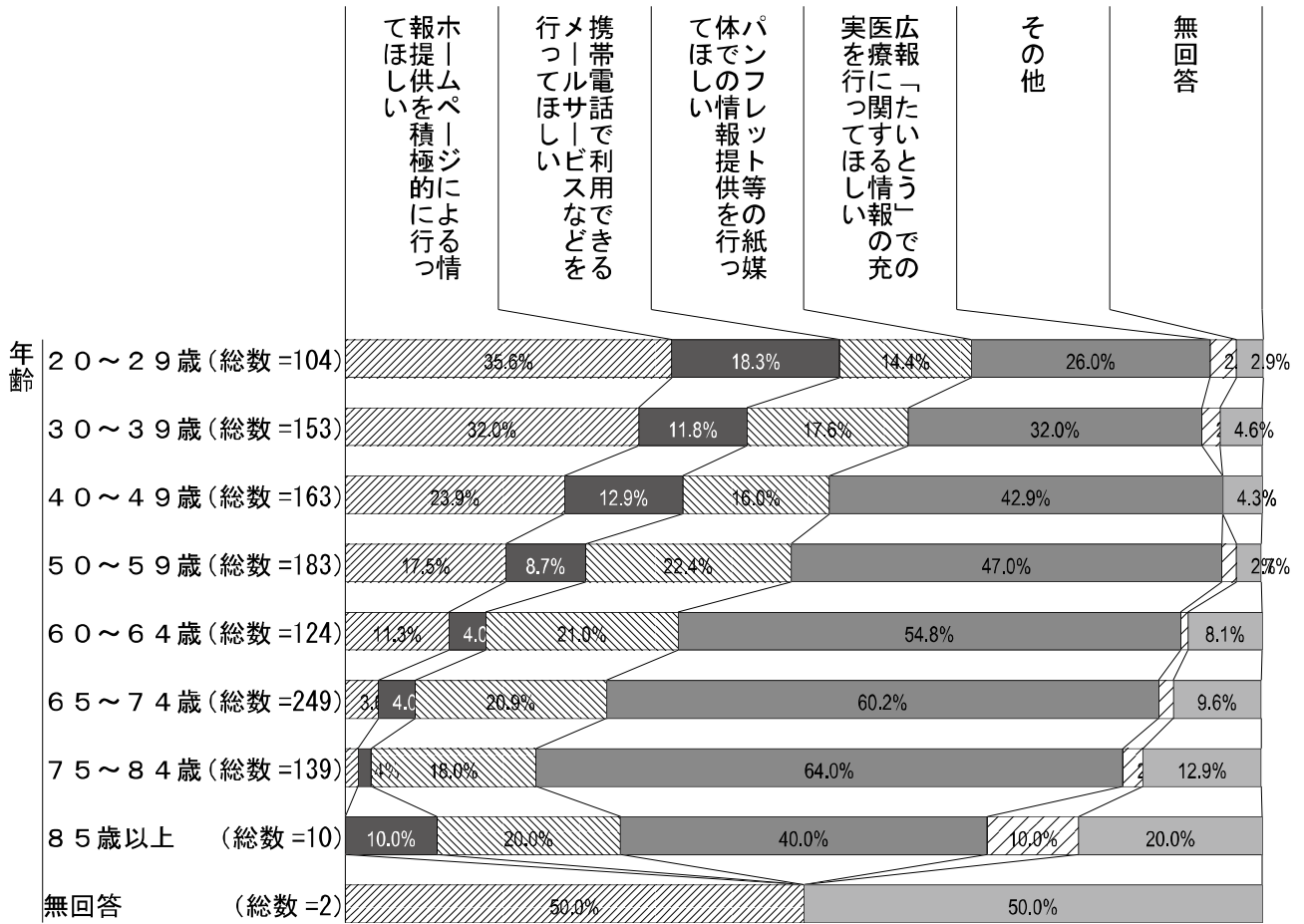
	度数	割合
(1) ホームページによる情報提供を積極的に行ってほしい	183	16.2%
(2) 携帯電話で利用できるメールサービスなどを行ってほしい	92	8.2%
(3) パンフレット等の紙媒体での情報提供を行ってほしい	214	19.0%
(4) 広報「たいとう」での医療に関する情報の充実を行ってほしい	543	48.2%
(5) その他	18	1.6%
無回答	77	6.8%
合計	1,127	100.0%



居住歴が短いほどホームページや電子メールでの情報提供を求める割合が高くなる傾向であった。また、居住歴が長いほど広報「たいとう」を重視する傾向であった。



また、年齢が若いほどホームページ、メールでの情報提供を重視し、年齢が高いほど広報「たいとう」等の印刷媒体での情報提供を求める割合が高かった。



3 1) 「台東区の身近なお医者さん」の認知

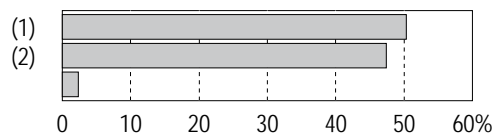
「台東区の身近なお医者さん」の認知度は50.3%であった。

問 43 区では区内の医療機関・保険薬局に関する情報を掲載している医療マップ「台東区の身近なお医者さん」を作成しています。あなたはこの冊子をご覧になったことがありますか。(はひとつ)

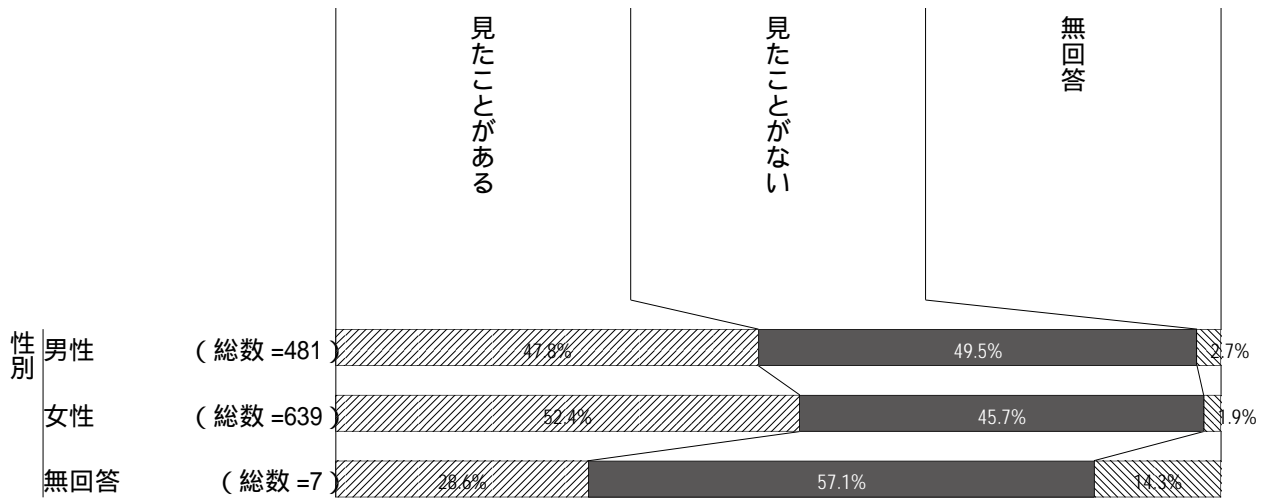
1 見たことがある

2 見たことがない

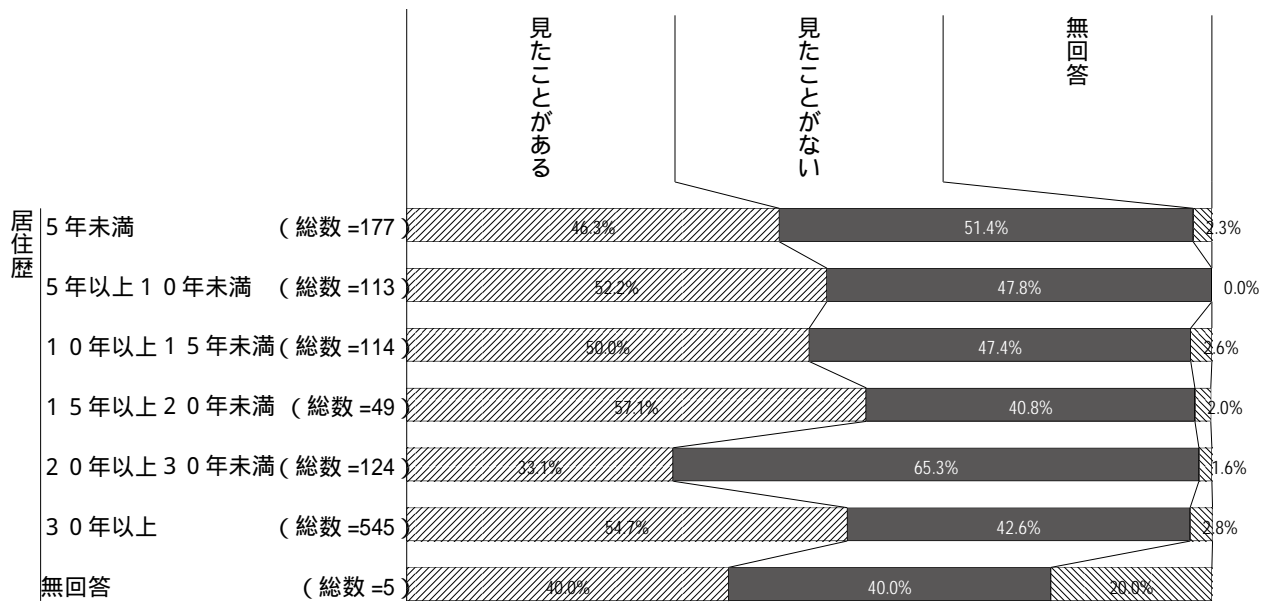
	度数	割合
(1) 見たことがある	567	50.3%
(2) 見たことがない	534	47.4%
無回答	26	2.3%
合計	1,127	100.0%



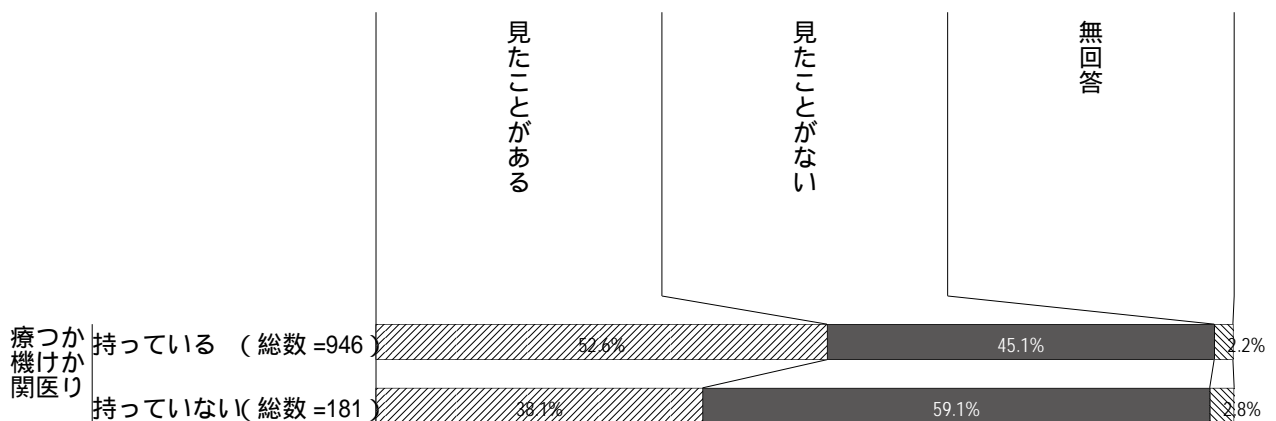
性別にみると、女性の方が見たことがある割合が高かった。



居住歴が長いほど見たことがある割合が高くなる傾向であった。



かかりつけの医療機関を持っている場合、見たことがある割合は有意に高かった。



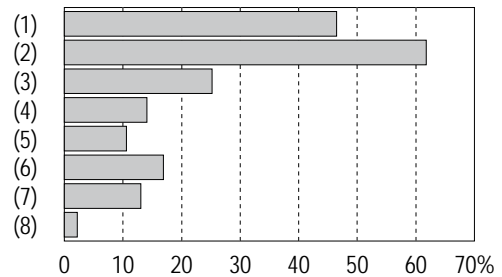
32) 今後の区の実施

区の今後の健康づくりの実施で充実させるべきものとしては、「健康診査や検診」が 61.8%、次いで「健康づくりに関する情報提供」46.5%であった。

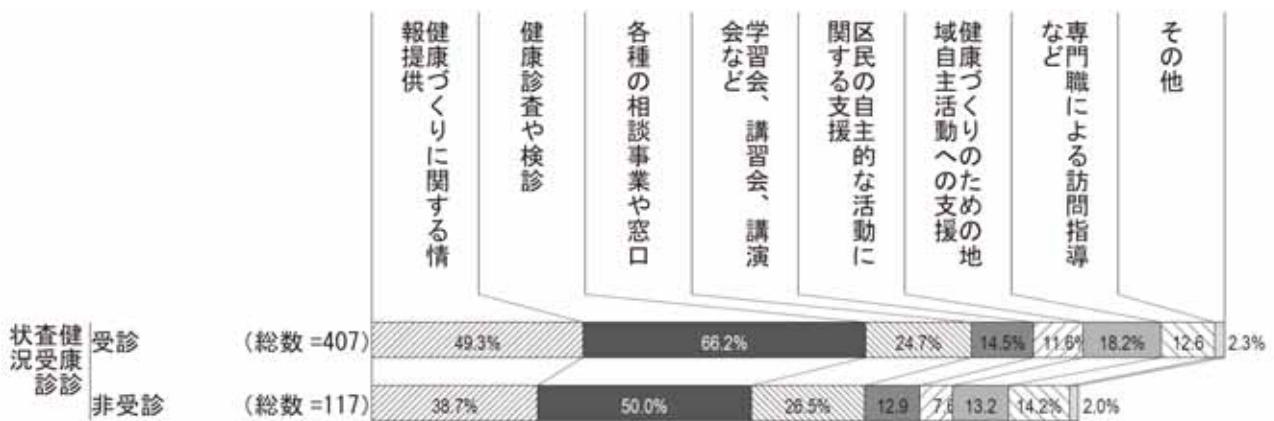
問 44 区では健康づくりのため、各種健康診査、健康づくりに関する相談、訪問指導、健康学習会などを実施しています。あなたは、今後どのような実施を充実させたらよいとお考えですか。(はあてはまるもの全て)

- 1 健康づくりに関する情報提供
- 2 健康診査や検診
- 3 各種の相談事業や窓口
- 4 学習会、講習会、講演会など
- 5 区民の自主的な活動に関する支援
- 6 健康づくりのための地域自主活動への支援
- 7 専門職による訪問指導など
- 8 その他 [具体的に:]

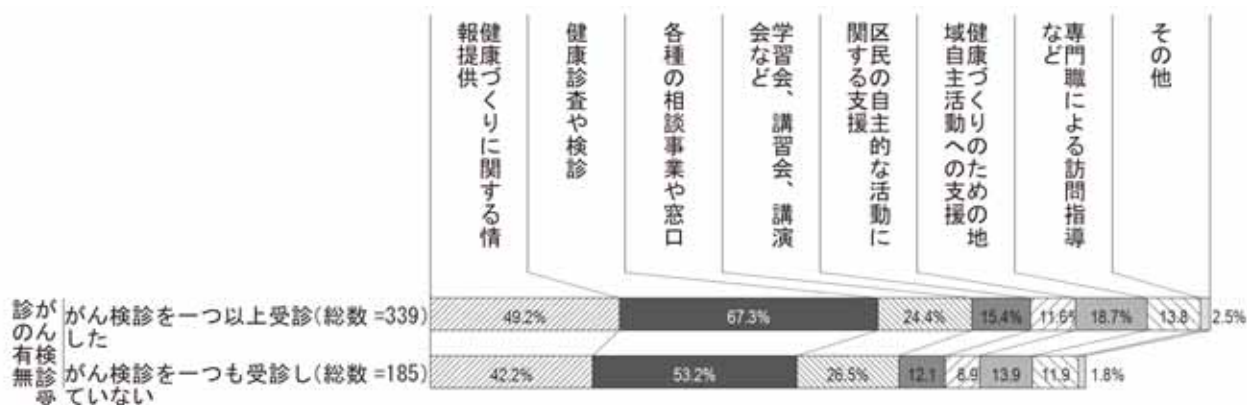
		度数	割合
(1)	健康づくりに関する情報提供	524	46.5%
(2)	健康診査や検診	697	61.8%
(3)	各種の相談事業や窓口	284	25.2%
(4)	学習会、講習会、講演会など	159	14.1%
(5)	区民の自主的な活動に関する支援	119	10.6%
(6)	健康づくりのための地域自主活動への支援	190	16.9%
(7)	専門職による訪問指導など	147	13.0%
(8)	その他	25	2.2%
	回答者数	1,127	



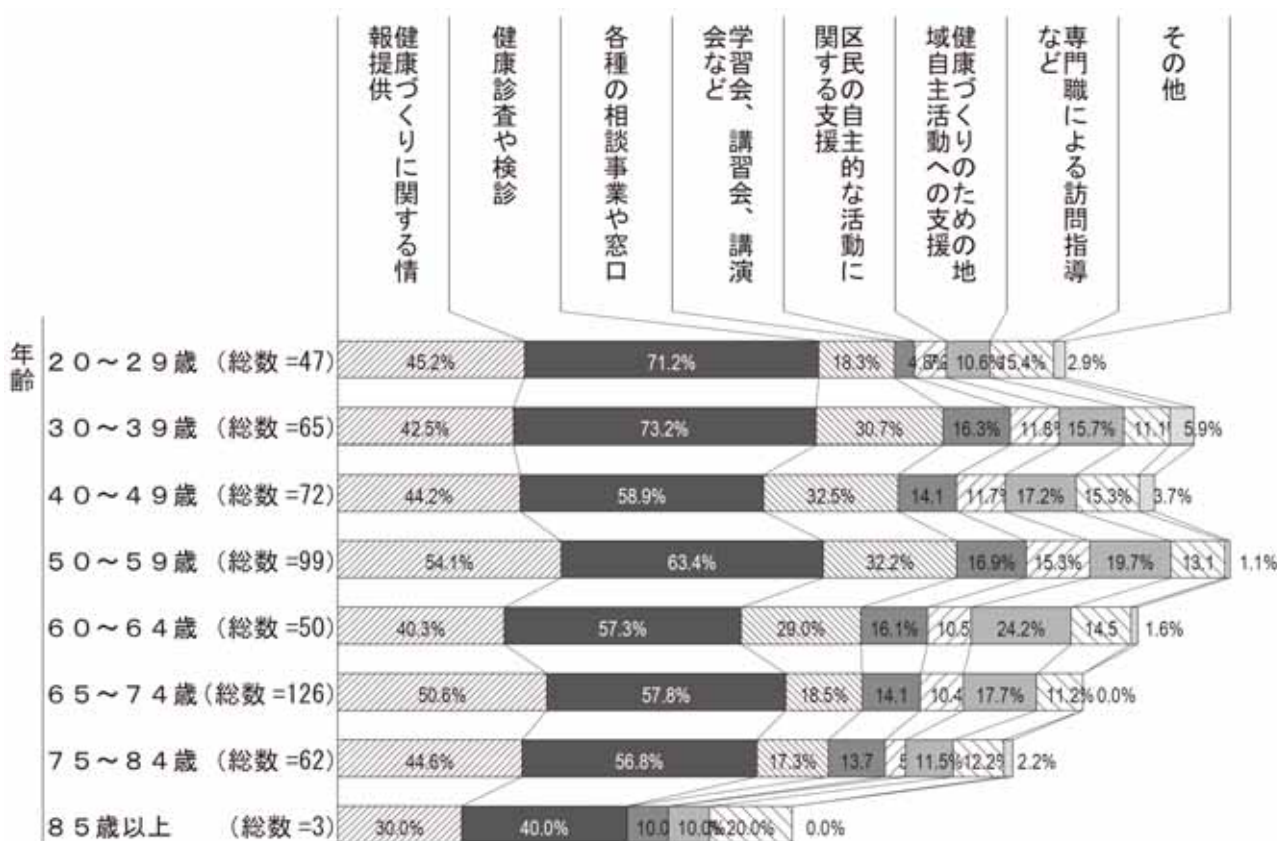
健康診査を受診している人では、「健康診査や検診」の割合が高かった。



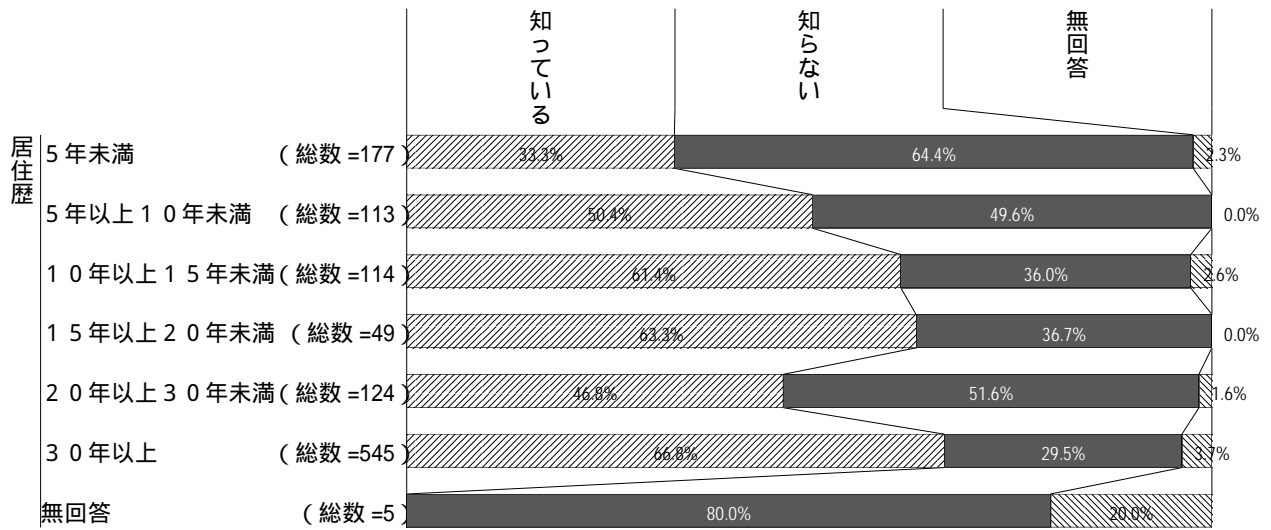
がん検診の受診者も健診受診者と同様の傾向であった。



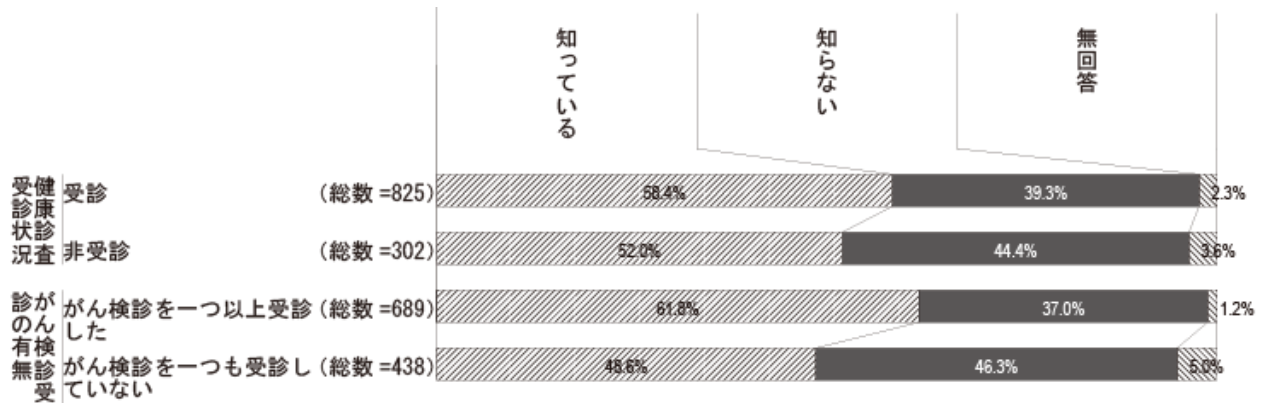
年齢別では、30歳代から60歳代にかけて「各種の相談事業や窓口」の割合が高くなっている。



居住歴が長いほど、認知度が高い傾向であった。



健診、がん検診受診者の方が受診していない人よりも認知度は高かった。



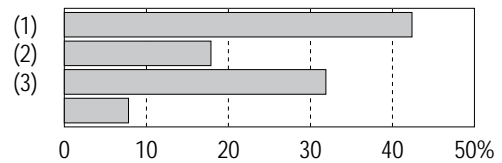
休日診療についての評価

休日診療については、現状のままでよいが 42.4%と最も高かった。

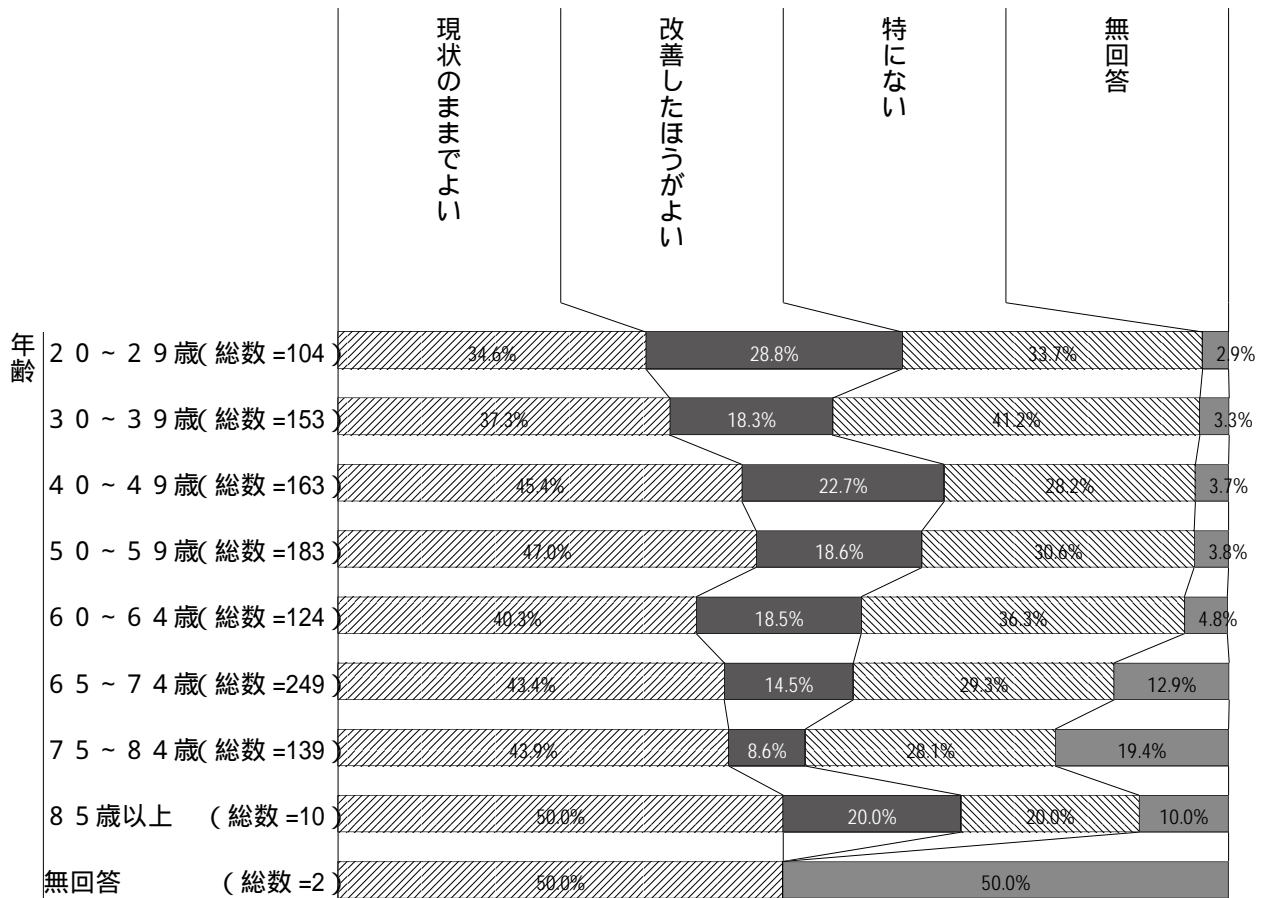
問 46 問 45 でお伺いした休日診療について、どのようにお考えですか。(はひとつ)

- | | |
|-------------|----------------|
| 1 現状のままでよい | 問 48 にお進みください。 |
| 2 改善したほうがよい | |
| 3 特にない | 問 48 にお進みください。 |

		度数	割合
(1)	現状のままでよい	478	42.4%
(2)	改善したほうがよい	202	17.9%
(3)	特にない	359	31.9%
	無回答	88	7.8%
	合計	1,127	100.0%



年齢別にみると、年齢の若い人で「改善したほうがよい」という割合が高かった。



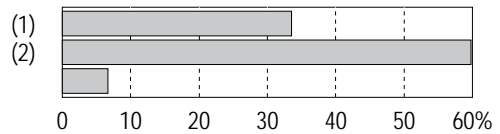
34) こどもクリニック

こどもクリニックの認知度は33.5%であった。

問 48 台東区では、身近な地域でより安心して子育てができるよう「台東区準夜間・休日こどもクリニック」において小児科の診療を行っています。「台東区準夜間・休日こどもクリニック」をご存知でしたか。(はひとつ)

1 知っている	2 知らない
---------	--------

		度数	割合
(1)	知っている	377	33.5%
(2)	知らない	674	59.8%
	無回答	76	6.7%
	合計	1,127	100.0%



年齢別にみると、30歳代から40歳代の子育て世代を中心に認知度が高く、40歳代では50%を超えている。

